

# さまざまな機器をIoT化する “IoT-Engine” 登場

## IoT時代のクラウド連携プラットフォームの決定版

IoTが世界的なブームになっている中、TRONプロジェクトの提唱者である東京大学の坂村健教授が、ユビキタス・ネットワークの構想をIoTに適用した「IoT-Engineプロジェクト」を発表しました。このプロジェクトは、オープンアーキテクチャに基づくIoT-Engineというエッジノードを規格標準化し、世界6か国7社の半導体メーカーが参加しています。そして待望の第一弾「IoT-Engine開発キット」を販売開始しました。今後、各社のMCU搭載のIoT-Engine用開発キットが順次発売予定です。IoT-Engineは、オープンIoTプラットフォームであるIoT-Aggregatorの上で動作し、クラウド上のさまざまなサービスと連携できるようにします。

IoT-Engineはプロトコルスタックを構築しています。IoT-Engineは、さまざまな機器をIoT化する低消費電力無線通信規格化されたコネクタ機能を搭載したMCUを持ち、標準化されたUモジュールです。無線PAN親機である、6LOWPAN(IPv6 over Low Power Wireless Network)が進められているクラウド上のIoT-Engine Area Network (クラウド同士がネットワーク)を介して、クラウドとの連携の要になるラウドとIoT機器間の接続により、IoT-Engineがセキュアな通信を行うことができます。IoT-Engineは、IoT機器間の連携やクラウド上のサービス連携が可能となる次世代システムAggregate Compute Engine 2.0をベースにクラウドプラットフォームとの親和性の高いIoT-Aggregatorでは、IoT-Engineを搭載した実世界の機器は、IoT-Engineと呼ばれるデバイスと呼べ、クラウド上には対応する仮想的なデバイスである、デバイス分身が登録されます。クラウドのプログラムをデバイス分身に対して実行すると、デバイス実身と制御される機器が制御されます。従来の方では制御される装置と制御盤があり、双方にプログラムすることに比べて、IoT-Aggregatorでは、制御盤はクラウド化され、プログラムも集中的に置かれます。このため制御される機器側のプログラムは軽くできるという特長があります。IoT-Engineは、クラウドまでは、セキュアな通信路が確立され、機器のアクセス制御はクラウド上で管理されます。IoTでは非常に多数の機器が扱われ、かつ、一部の情報は公開してもよいというような、かなり複雑なアクセス制御が必要になります。これを制御側にアクセス制御機能を持たせると、膨大なテーブルと判定ロジックが必要になります。IoT-Aggregatorを利用するIoT-Engineは、エンドユーザーが簡単な操作で対応クラウドと接続できるようにする必要があります。IoT-Aggregatorを使ったIoT機器の開発が可能です。IoT-Engineは、IoTデバイスを開発するために必要なハードウェア、ソフトウェアをオールインワンパッケージで提供します。導入したその日から、IoT-Engineを使ったIoT機器の開発が可能です。IoT-Engineは、IoTデバイスを開発するために必要なハードウェア、ソフトウェアをオールインワンパッケージで提供します。導入したその日から、IoT-Engineを使ったIoT機器の開発が可能です。

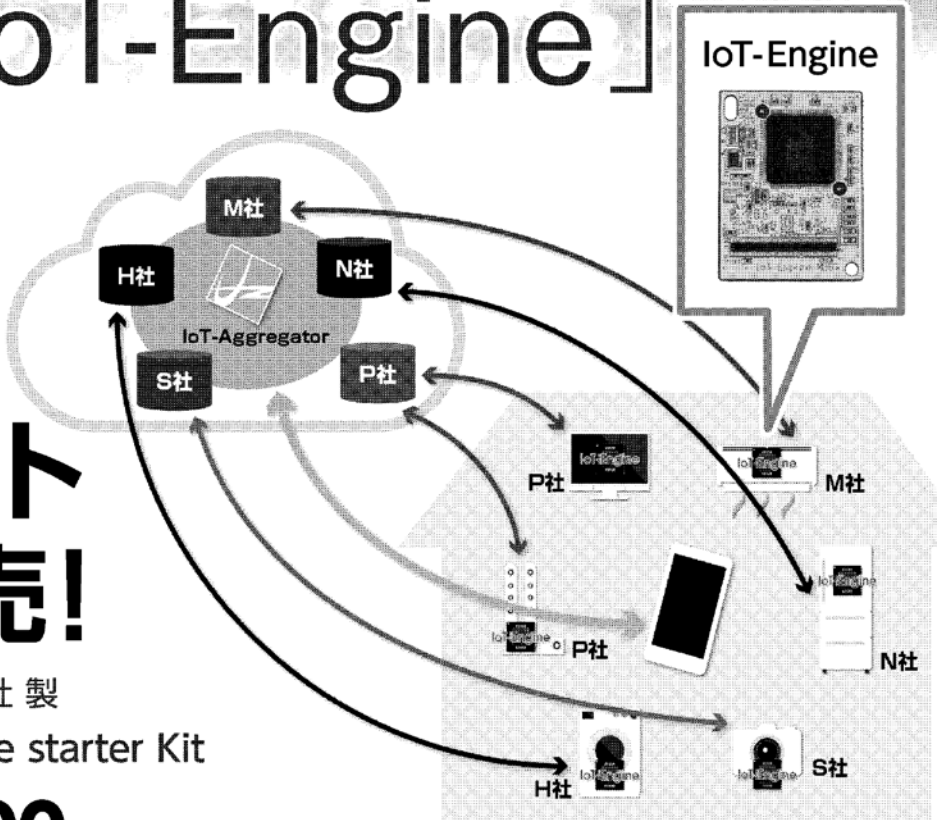
## オープンなIoTプラットフォーム「IoT-Engine」

### ALL in ONEの開発キット 一気に発売!

ユーシーテクノロジー株式会社 製  
TX03 M367 IoT-Engine starter Kit

価格: **198,000**円 (税別)

明光電子 商品サイトにて 特設ページを公開中! [eee.meicodenshi.com/Trend/IoTEngine](http://eee.meicodenshi.com/Trend/IoTEngine)



**明光電子株式会社** 横浜本社:045-471-2223 (担当:原田) / 北関東営業所:048-650-4755 (担当:橋田) / 大阪営業課:06-6260-5500 (担当:津田) / 京都営業所:075-254-3539 (担当:西本) / 福岡本社:092-502-2345 (担当:手嶋) <http://www.meicodenshi.com> ※記載されている社名、ロゴ、製品名等は各社の商標または登録商標です。